

【創世記第33章】

「ヤコブ自身は、

彼らの先に立って進んだ。彼は、兄に近づくまで、七回も地に伏しておしぎをした。エサウは彼を迎えに走って来て、彼をいだき、首に抱きついて口づけし、ふたりは泣いた。」 (創世記33：3、4)

これは連続講解ですので、前からの事を思い起こしながら聞いてください。エサウが400人を引き連れてヤコブを迎えに来るというのを聞いてヤコブは恐れ、ヤボクの渡しで天使と格闘し、神の祝福を勝ち得たのですが、いよいよその兄エサウに会います。女奴隷やその子供たちの先頭の群れ、続いてレアとその子供たち、ラケルとヨセフを最後に置いて、今度は一番先頭に立ってエサウを迎えています。兄に近づく前に何と7回も地に伏してお辞儀をしたのです。これは兄への悔い改めと礼を尽くしたのでしょうか。ヤコブを見て、エサウは走ってきてヤコブを抱き、首に抱きついて口づけし、二人は泣いた。と書かれています。感動的な和解のシーンです。

ここで思い出しませんか？ そうです。あの放蕩息子がルカ15：19

「お父さん。私は天に対して罪を犯し、またあなたの前に罪を犯しました。もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。雇い人のひとりにしてください。」と言って悔い改めて父のもとに帰ってきた場面です。「まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした。」父親の方から走り寄って彼を抱き、口づけしたという所は、このヤコブとエサウの姿に現われています。10節でヤコブはこの様に言っています。「私はあなたの顔を、神の御顔を見るように見えています。あなたが私を快く受け入れてくださいましたから。」

20年間という長い間、ヤコブは祝福も受けていましたが、苦難を通して砕かれ、へりくだりを教えられてきました。ヤボクの渡しでは天使にもものつがいを外されることで、びっこを引くようになりましたが、自我が砕かれ、へりくだるものとされました。真の神のしもべとなるために、この様に神に触れられ、砕かれる事が必要です。和解は先ず神のみ前に砕かれて悔い改める時に、神の赦しと愛は豊かに注がれ、平和の神ご自身が取り持ってくださいます。

今年も多くの主のみわざを見てゆくでしょう。もうそれはどんどん現われています。日本の孤児院も既に建物が建てられるようになり、カンボジアにもチームが遣わされます。また賛美やインターネットの働き、映画ミッションの働き等々。神のわざが起こった時に、自分の功績の様に思い、神の栄光を取ってしまったは大変です。詩篇34：18「主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、霊の砕かれた者を救われる。」なおなおへりくだって、主の御声に聞き従ってゆけますように！



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the **F**irstborn who are **R**egistered in **H**eaven

主任牧師：イエス・キリスト

牧師：ダニエル大重

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2015.1.11 No.823

新年のみ言葉

あなたとともにいるこの民はみな、
主のみわざを見るであろう。
わたしがあなたとともに行うことは
恐るべきものである。

出エジプト記 34：10



主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://tlcccfrh.astone-blog.jp/>

